RACE REPORT

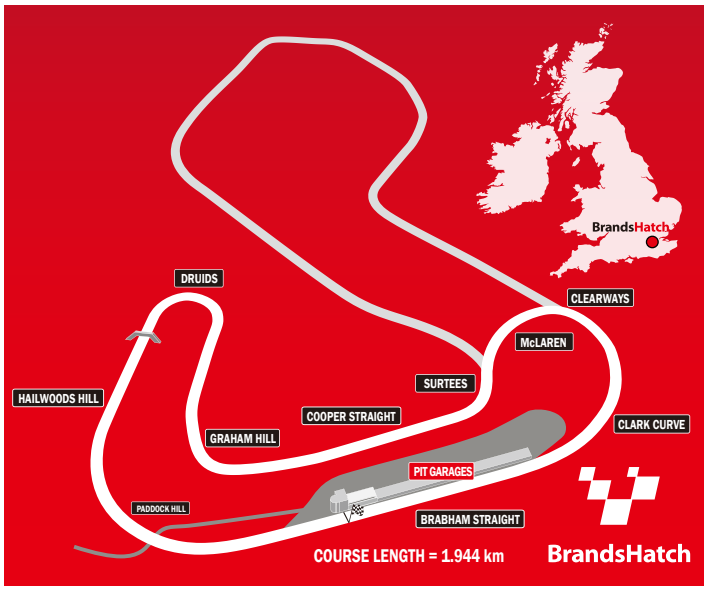
2014 三和トロフィー
レースレポート

冷静沈着な判断が功を奏し 元WRCチャンピオン STIG BLOMQVISTが勝利。

5月11日（日）ブランズハッチのスターティンググリッドに24台のヒストリックレーシングミニが帰って来た。16：20、オールレッドシグナルと共に『2014三和トロフィー決勝』の幕が切って落とされた。

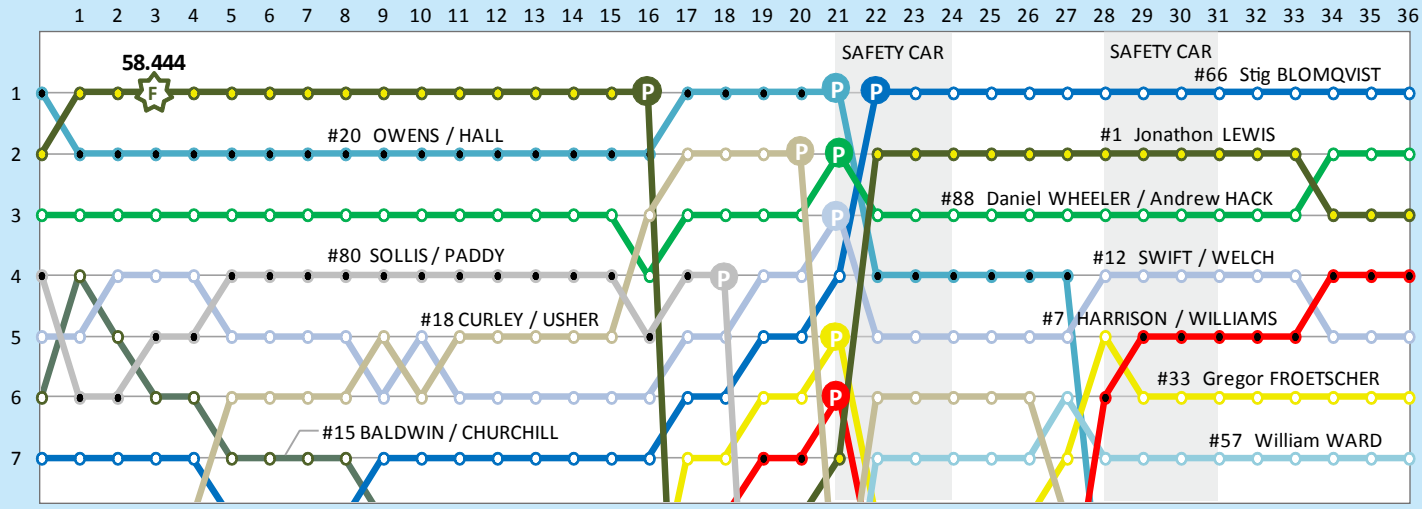
ポールポジションは、ミニ・ミグリアとミニ・セブンの歴代チャンピオンEndaf Owens / James Hall 組（#20）、続いてフォーミュラフォードで有名なJonathon Lewis (#1)、昨年の三和トロフィー覇者 Andrew Hack（＃88）、ご存知 Bill Sollis (#80) と強豪がひしめく中、各車きれいなスタート。レーシングカーとは思えぬ美しいボディのMK1クーパーＳが全開で第一コーナーに飛び込んでいく。先頭に躍り出た Lewis が58秒台のハイペースで他を牽引。早くも3周目にファーステストラップを記録し、順調に2位との差を広げていく。猛烈な追い上げを見せたのは Ian Curley (#18) で、16周目までにスタート時の16位から3位にジャンプアップ。最初に動いたのはトップを走るLewis。17周目にピットインして、規定の30秒ピットストップを早くもクリア。続いて19周目に Soillis が、21周目に Curley がピットインしてドライバーチェンジ。その直後、Sollis から交代した Paddy が21周目に第一コーナーでコースアウト。横転して大きな砂煙を巻き上げながらダートに突っ込み、中盤にしてレース終えた。セーフティカーが入り、各車一斉にピットインとなった。

ここで、1984年WRCチャンピオンの Stig Blomqvist (#66) がとった決断とは、ピットインを１周遅らせることだった。その狙いは的中。クリアになったコースの遥か彼方のセーフティカーを追いかけ、通常より７秒程遅いだけの好タイムで22周目を終え、ようやくピットイン。そして、セーフティカーに先導されて1分55～56秒で周回する他車を尻目に１位のままコースに復帰してしまった。作戦は、まんまと成功。26周目よりバトルが再開した。



Blomqvist を Lewis、Daniel Wheeler (#88)、James Hall (#20) が必死に猛追していた28周目、先程と同じ第一コーナーで、Hall が周回遅れの Soulet (#69) と接触。横転して最後にはブルーのフロアをコースに向けてどうにかタイヤバリア寸前で止まった。またしても、セーフティカーが Blomqvist の味方をすることになる。Lewis はヤキモキしたであろう。セーフティカーがピットインして、残り４周。Lewis はその差を縮められないばかりか、Wheeler にパスされ３位、昨年の覇者 Wheeler / Hack 組は２位。Harrison / Williams 組は粘り強い走りで４位入賞を果たした。

そして、息子の好判断によりセーフティカーを味方につけ、落ち着いたレース運びをした Blomqvist が、2014年三和トロフィー耐久レースを制したのであった。熱い闘いが終わって、観客は総立ちで全車に惜しみない拍手を送っていた。

2014 Sanwa Trophy - Lap Chart

Weather / Track : Cloudy / Dry